

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人 ささえ愛ひかりの家		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	熊本市西区河内町白浜イ2238番地		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた地区にあり、地域密着型としてご近所からの理解や協力があり交流を深め、安全に暮らせる環境にあり、家庭的な雰囲気や馴染みのある生活を過ごしています。又、利用者の医療面でも看護師が常時対応できる体制で、早期発見、早期対応を行っています。さまざまな専門職との連携もスムーズにできており、栄養面でも臨機応変に対応し工夫しながら利用者本位を考え健康管理に努めています。事業所だけの一方的な支援でなく、ご家族と一緒に連携をとりながら利用者を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は震災をはじめとして、高齢化や重度化等により入退院に伴う入居者の入れ替わりという環境の中で、“らしさ”を尊重し、入居者と職員とが笑顔をもって居心地よいホーム作りにまい進している。超高齢で入居されても俳句作り等これまで同様の生活が表情を引き出した事例に、職員の関りの深さが表れている。開所時からの系列法人と連携した地域との交流(家族会・ボランティアとのちまき作りや分校に通う小学生)等外出が困難になる入居者には日常の彩りとして生かされている。震災時には地域からの応援と共に、ホームも風呂を開放される等これまで築いてきた地域との関係性が生かされ、防災マニュアルを見直す等山や海という自然に恵まれた環境は目や心の癒しになるが脅威にもなりうるという危機感を強めている。家族会・地域ボランティアとの粽作り等家族・地域と共にあるホームであり、一層家庭的な雰囲気を醸し出している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目にする場所に理念を貼り、地域密着の事業所である事を認識しており共有し実践に繋げている。	開設時からの理念を継続し、玄関先や夜勤室、職員用トイレ等に掲示し、意識付けとしている。入居者のプライドを傷つけないこと等具体的に謳っている。地域密着型としての姿勢も具現化している。	開設して5年目、次なるステップとして理念の見直しを検討されることを望みたい。全職員が目指す指針としてわかりやすいものとしたり、目標等入居者の現状や地域性を鑑みながら検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の散歩や行事を通して交流に努めている。身体的レベル低下もあり、難しい利用者もいる。	開設当初からの入居者や高齢での入居等平均年齢も90歳を超えており、地域の中での気軽な交流は難しい現状にある。訪問する分校(小学校)や地域のボランティアとの交流、ホーム前にある竜神宮での子ども相撲見学等を地域住民との交流としている。ホーム周辺の農家の好意によるいちご狩りや野菜の持ち届け等もある。	ホームと地域との関係は築かれているが、入居者は外に出かけることが困難な状況と見受けられる。ホームに足を向けてもらう手段を講じることで、入居者と地域との関わり方の継続の一環とされることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のミニデイサービスへの参加。ナイストライの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議を通して意見を毎回頂き、外部からの思いを参考にしている。	2ヶ月ごとに開催する運営推進会議は、事前に議題を提示しており、震災時の対応や台風時の避難を報告し、意見交換としており、各参加者の立場での意見が出されている。自治会長、社協・消防団・民児協・近くにある病院や地域包括支援センター、いちょうの会(ボランティア)や家族会、交番等メンバー構成も充実しており、ボランティアとしてのみならず、イチョウの会からの提供である梅の実、梅干し作りとして全員で取り組むなどこの会議の相乗効果が発揮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの報告やアンケート、研修等に積極的に参加している。	市からFAXにて様々な情報を得ており、防災に関わる安全確保等の資料によりマニュアルを見直したり、介護相談員を採用し、研修会に参加する等協力関係を深めている。また、徘徊模擬訓練や地域包括が主催するミニデイに参加する等相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修も年1回、身体拘束について行っており、職員も認識できていると思う	外部研修(市のブロック会議)に参加した管理者は、回覧により情報を共有している。食の進み具合や表情を見て判断する等食事の進め方も拘束に当たると捉える等職員は拘束の弊害等正しく認識している。また、日中は玄関など開錠し自由な環境であり、所在確認を徹底している。家族に説明し了承を得たうえで、転倒予防に足元センサーやセンサーマットを利用している。	運営推進会議の中で拘束の無いケアについて協議されたり、職員の言動についても夜勤室に掲示し意識付けとされている。更には掲示された意義を再確認し、ちょっと待ってや抑制する声かけがないか等検討いただき、注意喚起されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修(勉強会)を通して、職員間で共有し、虐待に対して認識があり注意している。入浴時に傷等ないか注意して観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名様が後見人をつけていて支援している。職員や、地域の方にも呼びかけ勉強会も行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の理解不足か、事業所の説明不足かで契約者とのズレに気づく場面があったが、その後の対応で納得を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回行っているが、その時は要望等はなかなか出ない。面会時に話す機会を設けている。	玄関先の意見箱や訪問時現状を報告し要望等を聞き取りしているが、苦情等の申し出は無い。家族はお世話になっているからとの遠慮もあるようで、よろしく願いしますが大変のようである。訪問される家族も多く、大事にされる家族の思いに応えるべく家族の表情や声で不満等の判断材料の一つにしている。年1回の家族会のなかで運営推進会議の参加者を決めているが、要望等は出されない現状である。	家族会の中で家族同士での話し合いの場を作り、代表として運営推進会議に参加される家族に意見の集約をお願いすることを検討いただきたい。今後も、家族の意見や要望等をホーム運営に反映されることが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営の提案や意見を聞く機会がなかった。	毎月ミーティングを開催し、ヒヤリハット事例等を検討しており、ケアに関する意見や提案は出るものの運営に関しての聞き取りは行われていない。しかし、申し送りノートを活用し、職員の観察や気づき等情報を共有し、報・連・相を強化している。物品購入等必要事項は管理者を通じて代表に上申することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業がない、産休や有休も取れる。子供の休な病気の時に休みも取れる。職員間でお互い様の気持ちがあり、良い関係が築かれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があるが、個人の意思に任せてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で外部との交流する機会はある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が過ごしやすく、出来る限り今までにお生活に近い状態のサービスを行う。早やく馴染んでもらえるよう話をよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を本音で言ってもらえるように、良い関係づくりが築けるよう話しやすい雰囲気作り心にかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人優先や家族の思いを良く聞きサービスの提案に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴の中で輝いていた頃や苦労話をよく聞いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えの時期には連絡を取り必要品を一緒に入れたり、不用品は家族に引き取ってもらったり、本人の事を家族と相談しながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会はあるが、施設外へ出向く希望もなくお盆や正月に自宅への帰省を声掛けしている。	訪問の遠のく家族にはお願いすることもあるが、頻繁に訪問される家族や親類、知人の定期的な訪問や昔からの知り合いの訪問によりカット支援等こだわりを持つ入居者もおられる。地域からの入居者も多く、生活歴を知っている職員の存在は大きく、日々の会話に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動時やくつろぎ時の座る場所や食事の場所など気配りしている。利用者同士の会話の中で良い刺激にもなるが興奮してエスカレートされる場合は職員が間に入る事もあり注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ移られた場合も事業所より会いに行く機会を設けている。家族との連絡を取り合える関係にある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が困難な場合は家族との相談を通して意向を考慮して行っている。	暮らし方など家族の意向中心になりがちではあるが、意思疎通や発語困難等もあり、非言語的コミュニケーションによる聞き取りや単語を聞き取ったり、嫌がっておられる様子や笑顔をバロメーターとして推察し、本人の思いに込えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。情報やサービス利用等を職員が共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	よく観察し、記録や申し送りを密に取るよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題や提案があったら、ミーティングやショートカンファを行い対応。申し送りノートでの共有もしている。	家族の面会時に要望等を聞き取りし、担当者会議は開催しておらず、訪問時や心身の状態変化に応じて家族と話しあっている。また、退院に向け家族や主治医・看護師やケアマネジャーによるカンファレンス(入院先で)を開催し、プランを新たに作成している。介護認定更新時には見直し、新たなプランを作成している。	ヒヤリハット事例の検討や毎月カンファレンスが開催されており、職員の意見や気づきを生かした実現可能なプランとされることを期待したい。また、職員全員がプラン作成にかかわることで、ケアに生かされるものと思われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の充実に努め共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り家族負担を減らしている。面会の少ない家族に連絡やおたよりを出している。会える機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんを利用している。中学生のナイスライの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。受診、訪問診療、専門医受診(家族と同行)。個々に合った対応を出来る限り行っている。	かかりつけ医は、本人、家族の希望する各々の医療機関での受診や訪問診療となっている。職員の同行や家族と待ち合わせたり、家族が受診を支援される場合は、状態報告書を提供している。毎日のバイタルチェックや、変化等看護職員への報告とともに主治医に相談し指示を仰ぐ等適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題点や気づきを記入し、申し送りをして早期発見へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が担当し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて訪問診療を受けている。後見人とも方針を共有している。	入居時に、ホームでできることできないことを含めてリスク説明をするとともに、重度化に伴う意思確認書を交わしている。ホームでは経管栄養になると対応は難しいとしているが、主治医による訪問診療を受けながら、看取り用介護プランのもと、ホームでの生活が可能な限り支援している。看取りにあたっては、職員の研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で毎年行っている。ロールプレイングで実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害のマニュアル作成を行い避難場所への避難を行った。本年度より地震マニュアルの作成も行っている。	熊本地震を受けて、災害マニュアルの改定をし、地震等の災害に対する体制を整えている。8月の台風時に入居者全員での系列デイへの避難は、今後の災害避難の一環として位置づけている。また、火災避難訓練は、11月の夜間を想定したものを含め、年2回実施している。居室入り口に「反射タスキ」を設置し、避難誘導に役立っている。津波警報による地域からの応援や運営推進会議への消防団の参加等地域との関係が築かれている。	8月の台風時の避難は、被害がなかった中での貴重な経験として訓練の一環と位置付けている。未曾有の自然災害が発生しており、今後も危機感を持って継続して訓練されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているつもりではあるが、時に反省することもある。否定はしない会話に心掛け対応している。	職員の言動が、入居者の心に大きく影響することを認識して、態度や口調等が入居者の誇りやプライバシーを損ねることのないように努めている。管理者は“心のこもった声掛けであればよい”として、「ありがとう」等の入居者の労いの言葉も気づけてほしい”と指導している。個人情報保護、守秘義務については、研修を行い、入職時に、誓約書を交わしている。	今後も、職員の言葉遣い(命令口調や慣れ合いの言葉、与薬時の声掛け等)については全員で検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発語が無理な方でも、表情での訴えを察知できるように働きかけている。ジェスチャーを取り入れ表情を見て思いを感じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調等も考慮しながら過ごしている。時には外出を促したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入っている床屋さんに髪を切ってもらっている。爪切りや耳かきも気づいたとき入浴後行っている。服装も楽しめるように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はできていたが、身体介護が必要となり、おやつ作りや行事での手伝いになっている。ご飯の炊ける匂いは感じてもらっていると思う。	ホームでは、ご飯のみを炊き、系列の事業所の厨房での副食を利用している。普通食やミキサー食・刻み食等個別的な食事形態であり、入居者は食への関わりは難しく、日々のおやつ作りやちまき作り等で食に関わってもらっている。職員は入居者のケアが重要として介助や食を進める等に徹しながら、持参した弁当を広げ一緒に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	低栄養の方にはプロテイン・エンシュアと補助食を提供している。水分補給は年中気にかけて夜間、トイレ起きの時に提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床後に口腔ケア行っている。個々に合ったケアもしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツから昼間にリハパンや布パンツでためしたり、失敗が無いよう時間をみて習慣化したり個人によっても時間を変えている。	排泄チェック表を活用し、パターンや習慣を把握している。職員は時間的なトイレ誘導や動き・仕草によりトイレでの排泄を支援している。尿量による排泄用品の使い分け等排泄用品も一人ひとりに合うように検討し、昼・夜の使い分けにより失敗のないよう支援している。トイレの場所にこだわりがある入居者には矢印で動線を示し、夜間のみのポータブル使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を利用する前に、牛乳やヨーグルトでの対応をしている。個々に応じた予防もしている。ゲームや体操に参加を働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせることは難しく、入浴のサイクルで誘導している。入る順番は気分よく入ってもらえるようにタイミングを合わせている。汚染があれば、入浴日でなくともシャワーなど清潔には心がけている。	リフト浴で安全で安心な入浴に努めており、夏場は、シャワー浴を利用したり、冬場は、ゆっくりと温まりながらの入浴は、週2・3回を目途に支援している。また、汚染時には、シャワーや清拭で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて休息をしたり、日光浴を促したり夜間帯も眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服説明書を個々に作成し副作用の勉強をしている。また、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで短歌を書かれていた利用者には毎日、自分の歌をノートに書いてもらっている。誕生会や敬老会には行事食を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、外泊を年2回声かけを行っている。	入居者の身体状況により外出は難しくなるなか、ホーム周辺の散歩や系列事業所での小学生との交流会、どんどこや、たこあげ等へ見学に出かけている。また、家族の協力により、正月の神社仏閣参拝、お盆の自宅外泊、日常的な外出など、個別的な外出支援に努めている。	冬の間は外出は難しいと思われ、温かい日や時期に応じた外出を継続して支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持されている利用者はいない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の子供さん(闘病中)にお見舞いの手紙を書いてもらい、家族に渡し、また、子供さんからの返事もあり、お互い喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけに季節感を取り入れている。廊下や居室に足元センサーを使っている。トイレの場所が分かるように矢印を入れて自力にて行ってもらっている。独語が大声になる利用者には、自室で過ごしてもらっている。	玄関先には、地域から寄せられたイチゴ苗等のプランター季節感を醸し出し、壁面を活用した写真や作品が楽しませてくれる。ホールから続くウッドデッキからは、庭先の山茶花や特産のみかん山が眺められ、日光浴やお茶が楽しめる環境にあり、食事の休憩場所として活用されている。また、廊下、浴室、トイレ等も、専任の職員によりきれいに清掃され、危険性の無いようなレイアウトに職員の気づきが窺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々でソファの位置を変更したり工夫している。気の合った人や会話可能な人と同じテーブルにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を持参され飾っていた人が不穩になり、今は飾っていない。タンスも地震で危険だった為、家族に渡している。布団や枕は以前使っていたものを使用されている利用者はいる。	入居時に必要品をリストとして渡すとともに、こだわりのある物の持参を依頼している。地震から、危険な物は整理し安全性を確保している。自宅から筆筒や仏壇を持ち込んだり、家族写真等が飾られ、衣服の入替は家族と一緒に整理する等家族とともに居心地よい環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わずトイレに行けるよう順路を貼っている。夜間に足元灯を付けている。ポータブルトイレを置き、センサーマットを使用している。		